

エンジヨイ 園芸

野菜

—— 鮫島 國親

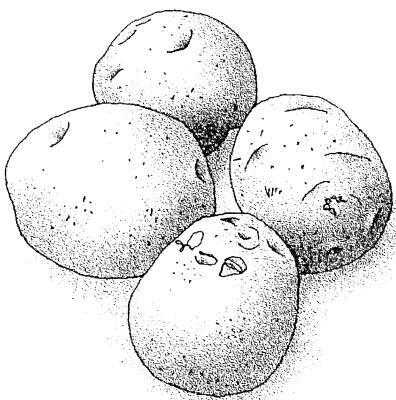
原産地は南米アンデス高地。世界中で広く栽培されています。塊茎（イモ）を食用にし、種イモで増やします。種イモには三〜六カ月の休眠期間があります。

ジャガイモ（秋作・春作）

よい砂壤土が適します。イモの表面がかさぶた状になる「そうか病」は中性〜アルカリ性土壌の連作地で多発しやすいです。いったん発生すると防除は難しいです。無病イモを植え付けましょう。青果用品種はニシユタカ、メークイン、農林1号、デジマなどがあります。

秋作は八月上旬〜九月上旬に植え付け、十一月下旬〜一月下旬に掘り取る栽培です。台風や霜の被害に注意が必要です。種イモは暖地春作の休眠の明けたイモを使用します。一片が三十〜四十程度（二〜四芽）になるように縦に切り、風通しの

弱酸性の排水よい土で



良い日陰に二、三日置きまかぶせ、うねを作ります。種イモの必要量は一坪当たり二〜三キ、化学肥料百キ、三要素15%の場合を目安として施します。うね幅六十〜六十五キ、株間十五〜二十キ、一条植えとし、種イモを並べて土を十キくらい

本ばには一平方坪当たり堆肥二キ、化学肥料百キ、三要素15%の場合を目安として施します。うね幅六十〜六十五キ、株間十五〜二十キ、一条植えとし、種イモを並べて土を十キくらい

かぶせ、うねを作ります。生育前期に雨などで土が流れた場合、イモの緑化防止として土寄せを行います。芽数は一株当たり三本以下に整理します。収穫は晴天日に行います。

春作は一月中旬〜三月上旬に植え付け、五月上旬〜六月中旬に掘り取る栽培です。種イモは寒冷地産の夏作イモもしくは暖地秋作産のイモを使用します。うね幅六十五〜七十五キ、株間二十一〜二十五キ、一条植えとします。早い時期から収穫したい場合はマルチ栽培が有効です。



（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

くらし 悠遊優

島県では冬から春にかけて多く生産され、県外へ出荷されます。今回は県内各地で一般に栽培される秋作と春作を紹介しします。

萌芽適温は二二〜二五度、生育適温は一五〜二〇度で冷涼な気候を好みます。土壌は弱酸性で排水の